

OPEN ACCOUNT

(オープン アカウント)

アジア開発銀行福岡 NGO フォーラム ニュースレター

Vol.5 Aug. 2000

「サミット・WTOを考える講演会」を振り返って

楠原圭子

去る7月5日・7日、ADB福岡NGOフォーラムは、「サミット・WTO（国際貿易機関）を考える講演会」と題し、2回の講演会を行いました。福岡市でのサミット蔵相会合開催を、単なるお祭りごととしてではなく私たち市民の生活に関わるものとしてとらえ、蔵相会合の主要議題であったWTOを通してグローバル化が私たちの生活に及ぼす影響について、海外からのゲストに話していただいたものです。以下はその報告です。

7月5日（水）モード・バーロウさん（カナダ人評議会共同議長）講演会

公共サービス“国際化”が進行する！なぜ人々はシアトルで「NO！」の声をあげたのか
会場：クローバープラザ 参加者数：63名（この講演は自治労及び福岡ゼネラル・ユニオンと共催）

7月7日（金）チー・ヨークリンさん（マレーシア第三世界ネットワーク）講演会

サミット・WTOー私たちが知らないこと・知るべきこと・知りたいこと
会場：ももちパレス小ホール 参加者数：57名（この講演は福岡ゼネラル・ユニオンと共催）

（7日講演には(財)福岡県国際交流センターより助成をいただきました。）

今回の講演会は私たちに
とって久しぶりに大きなイ
ベントでしたが、同時に、
新たに大きなテーマと出
会うきっかけとなりました。
グローバル化の進行の中
で世界はより緊密に結び
つき、知らず知らずの内に
私たちの生活にさまざまな
影響を及ぼす今、WTOの
存在はとてつ大きなもの
です。

両講演会に参加された方
のアンケートには、次のよ
うなご意見がありました。

サミット・WTOを考える

WTO っちゃん
世界貿易機関
なんね？

<p>公共サービス 「国際化」が進行する！ なぜ人々はシアトルで 「NO！」の声をあげたのか 7月5日(水) モード・バーロウさん (カナダ人評議会共同議長) 講演会 クローバープラザ3階Aホール 14:30～20:30 参加費：一般1000円 (学生・会費500円)</p>	<p>サミット・WTO 私たちが知らないこと・ 知るべきこと・ 知りたいこと 7月7日(金) チー・ヨークリンさん (マレーシア第三世界ネットワ ーク) 講演会 ももちパレス小ホール 18:30～20:30 参加費：一般1000円 (学生・会費500円)</p>
--	---

主催 アジア開発銀行 (ADB) 福岡 NGO フォーラム
共催 福岡県国際交流センター

〒810-0001 福岡市中央区天神2-1-1 アジア開発銀行 (ADB) 福岡 NGO フォーラム
TEL: 092-281-1111 FAX: 092-281-1112

◎今までWTOについてあ
まり考えたことがなかつた
のですが講演で問題意識を
持つことができました。

◎WTO・グローバル化の
問題の本質を知ることがで
きた。

◎マレーシアの方からの話
が聞いてよかった。

◎グローバルイゼーションに
対する問題が生活者の視点
から明らかになった。

◎WTOの中味がよくわか
った。等々

これから私たちが知りたいこと・知るべきことを一緒に考える場を提供できればと思っています。
最後になりましたが、講演にご協力くださいました市民フォーラム2001関係者の方にお礼を申し
上げます。（講演の内容・参加者の感想については次ページ以降に掲載しています。）

モード・バーロウさん（カナダ人評議会共同議長）講演要旨

「人類と生態系の共存、およびコモンズを守るための『市民アジェンダ』」

自由貿易による経済のグローバル化、特にWTOの問題点とそれに対して私たち市民は何ができるかについて考えてみる。カナダは12年前にアメリカとNAFTA（米加自由貿易協定）を締結して以来、様々なグローバル化の影響を受けている。貧富の格差、失業率の上昇、国民の健康の危機などこれは今後日本が経験するモデルとなり得る。その原因は貿易協定によって巨大化した多国籍企業の進出にある。国境を超えて活動する巨大な多国籍企業は投資をする国の法律、あるいは地方の法律を無視する形でビジネスに都合が良い協定にのっとってビジネスをやることができる。多国籍企業はNAFTAなどで保障されている国を相手取って訴訟する権利に支えられている。NAFTAだけでなくいろいろなものがある。APEC、WTO、MAI、こういったものにバックアップされてますます活動を広げているというのが現状である。今や最も強力な経済機構となった巨大多国籍企業は、カナダだけでなく世界中に大きな影響を及ぼしている。グローバルな単一消費文化による世界中の文化および生物多様性の破壊、北と南の不平等のさらなる拡大、生命に関わる種子や遺伝子、文化と遺産、大気と水、社会保障計画、保健衛生、教育などあらゆる分野の私有化、企業が世界に大きな悪影響を与え始めていることは間違いない事実である。

昨年のシアトルでの抗議行動は偶然で突発的に起こった行動ではない。WTOは世界最強の貿易を司る機関である。貿易に関する協定の数は26あり、その貿易協定の下、WTOは加盟国の法律に対する司法権、立法権を有しており、そうした法律によって変わるような力をもっている。WTOは商品（モノ）貿易のルールづくりに留まらず、文化や環境、食料安全保障、公正な貿易、医療品特許のルールづくりにまでその対象分野を広げている。例えば、食料を供給するものだった農業は巨大な多国籍アグリビジネスに利益をもたらす道具となってしまった。また、私たちの生活において重要な水がWTO協定のなかで貿易の対象となる商品に位置付けられつつある（いったん商品化した場合、10年後、20年後には多くの人が水がないという状況下で亡くなることもありえる）。さらに、サービス、保健医療、教育といった社会保障の分野も巨大多国籍企業のターゲットになりつつある。このWTOに対して、私たちは4つの要求を突きつけている。①新しい交渉の拒否、②権力、執行力のバランス、③運営の民主化、④WTOの縮小、以上の4つである。私たちは貿易にまったく反対というのではなく、人々、すべての生物、環境保全のために必要なコモンズ（人類の共有財産）を侵す、WTOの貿易に反対しているのである。

今回の福岡で行われる蔵相会合では経済のグローバル化を進めるかについて話が行われる。私たちが望んでいる事は、経済のグローバル化による南北格差の拡大や環境破壊、人権侵害ではないことを政府に知らせる良い機会である。最後に、世界のあり方について公正な世界をつくるための情熱をぜひ皆さんと共有したいと思う。今回、福岡に来れたことはみなさんとの新しい関係の始まりだと考えている。

（土肥剛嗣）

モード・バーロウさん著作紹介「BLUE GOLD」（共著）当フォーラムへお問い合わせください
公共財である“水”が企業によって私有化されつつある現状を分析したレポート。（¥9,000）

サミット・WTOを考える講演会「公共サービス“国際化”が進行する！」

モード・バーロウさんの講演を聞いて

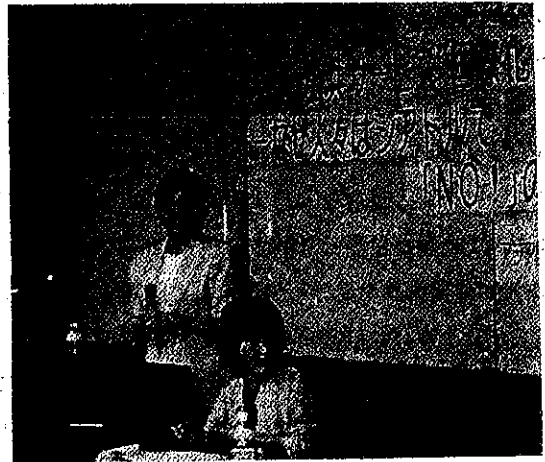
池田真里子

今回は、カナダ人評議会共同議長であるモード・バーロウさんにお越しいただき、WTOの問題点、経済がグローバル化するとはどういうことか、それに対して私たち市民はどう対処していくのか、などをお話していただきました。

経済のグローバル化とは、つまり、マクドナルドやコカコーラのような巨大企業による巨大企業のためのルールでかたちづくる、単一化された経済のことです。そのルールによって、世界中の各地域の伝統、文化、技能、芸能、価値観が破壊されています。日本でもアメリカ企業の商品は、あたりまえのように毎日たくさん目にします。途上国に押し付けられる「構造調整プログラム」は知っていましたが、自由貿易やWTOがいわゆる「第一世界」に対しても服従を強制している現状があると改めて知り、はっとしました。

WTOは、まさにそういった構造の上に作られているのです。貿易を制限するものとみなされればそれを廃止し、今まで共有に使われていたものをも大企業が商品化、私物化してしまう。そんな現状に歯止めをかけるため、新たに貿易システムを見直す必要があります。「大気、水、遺伝子、文化遺産など、人類が共有し保持・保護していくべき特定の分野をWTOのルールから守らなければならない」とモードさんはおっしゃいます。

モードさんのお話を聞きながら、私は自分の生活について考えていました。まったく逆のことを言うようですが、WTOやグローバルのお話を聞いていつも感じるのは、地域・コミッティーでの活動の大切さです。自分の生活が、結局は、国際問題や環境につながっていることに気づかされます。世界の政治や経済を支配する構造を考えることが重要であると共に、小さな各コミッティーでの基盤をしっかりと固めていく、



モード・バーロウさん

下からの動きも大切です。各地域の伝統、文化を大切に、地域内で循環する社会を作る。しかし、それは決して体外に障壁を作るというのではなく、各コミッティー同士が情報を交換し合い、互いを尊重しあえば、それが一番理想の社会かな、と考えたりします。

後の交流会で、モードさんと食事を一緒にしました。なんにでもチャレンジ精神旺盛な方で、見た目ではダメだとおっしゃっていたうなぎや納豆なども、かならず一口は挑戦されていました。「おいしいわよ」といいながら、後は全部私に勧めてくれたりもしましたが(笑)、ユーモアがあって、魅力的な方でした。こうした個々のつながりが、とても大切だと感じます。こうしてネットワークは広がっていきます。カナダにもがんばっている“かあちゃん”がいるんだな、と。彼女のパワフルでやさしい笑顔が思い浮かびます。

チー・ヨークリンさん（マレーシア第三世界ネットワーク）講演要旨

今回このような形で福岡に来ることができ、大変うれしい。明日サミット蔵相会合が行われる福岡でこのような勉強会を開催することは大変意義があると思う。

【政府の役割】1970年代までは政府が経済や環境、国の開発などに民主性に基づいた決定権を持ち、政策を展開していたが、それが崩れ始め1980年代から90年代前半はそれまで蓄積された富が不均衡に分配されていった。国営事業が民営化され、資本をどう使うか社会をどう整備していくかを考え始めた時期でもある。しかし97~98年のアジア経済危機を見ると、民営化された企業が崩壊したことがわかる。そのような時期を経た今、市民や中小企業、農業従事者を守る為にある程度の政策や法律が必要となり、その保護により経済が発展すると言えるのではないか。

【WTO】保護を必要とする分野があるにも関わらず、WTOが発足し、従来取り扱われていた貿易品の他にサービス、金融、法律、教育、知的所有権を自由に取引することが認められた。WTOはグローバル化の名の下に世界中を同じシステムに統一しようとしているが、国際的に強力な機関は自国の政策にも影響を及ぼす。自国の決定よりWTOの決定事項の方が重要になるのである。

グローバル化は必ずしも全てが悪いわけではない。文化や人々の交流が盛んになり良い面もある。しかしサミット蔵相会合などで言う経済のグローバル化、自由化は、社会保障、環境など様々な分野に影響を及ぼす。5年前はグローバル化とその利益が謳われ、その結果、国連の人間開発白書などにある様に、以前より富の集中化は進んでいる。これは偶然ではなく、間違ったルールが敷かれている為必然的に起こった事で、その間違いを正さなければならない。シアトルのWTO閣僚会議やタイ・チェンマイのADB総会で起きた事を見れば、色々な国で市民が世界で何が起きているかということに、より深い認識を持ちつつあることが分かるだろう。

市民が直接影響を受ける分野として農業や食品がある。日本はWTOの加盟国なので最終的には輸入を完全に自由化しなければならないが、今の段階では関税を少しずつ引き下げる方向で自由化を進めている。しかし、東南アジア諸国は既に食品の分野で自由化が完全に進められており、伝統的に小さな農家が生産していた農作物が、他国から輸入されている。発展途上国は自国の政府で輸入の規制をすることができないのだ。



チー・ヨークリンさん

遺伝子組換食品については、ヨーロッパでは輸入を禁止している。現在国連のもとで安全な食品を提供することが決められているが、実際は作物の種は特定の企業が独占しており、企業がWTOに訴えれば、WTOは輸入制限をしている国に勧告する事ができる。これがなされると私たち消費者の手に遺伝子組換食品が入ってくることになる。

WTOに加盟している以上、そこで決まった協定を履行しなければ制裁が加えられ、その結果小規模な農家や企業はつぶれてしまう。WTOの協定が私たちの食べ物やその他すべての点において影響を及ぼすことになるのだ。

【WTOの交渉決定過程】表面的には民主的に見えるが、実はそうではない。2年に1度の閣僚

会議では、殆どの決議がアメリカ、EU、日本などの主要国によってなされる。総会においてはその決定事項は、主要国間の非公式の会談である程度まとめられ、それが、OECD 加盟国やインド、インドネシア、ブラジルなどの力のある途上国との間で非公式で話される。そこで同意が得られてから総会に提出されるため、最後に小国がいくら反対してもその意見は通らず、実質的には大国間での決議となる。小国にとって不利な点は、非公式の会合に招かれないだけでなく、どこで会合があっているかも知られないことである。小国は人材、資金不足で多くの代表団を送ることが困難であり、様々な非公式の会合が同時に行われる場合、全てに出席することも不可能である。

WTO の交渉決定過程が民主的でないことに対する抗議運動は、1996 年のシンガポールでの閣僚会議、98 年のジュネーブでも行われた。これは市民運動が活発になってきただけでなく、決定過程に反対する力の弱い国が意思表示をし始めたからでもある。NGO や市民団体は力を発揮し、WTO の莫大な力に対抗し、決定権の不透明性、不公平性をあばき、方針を変えていく必要がある。それにより持続可能な開発や市民権の復活を目指していかなければならない。

半年前南の国が集まり OECD や G7 に対し抗議運動を行う団体が結成された。カナダ、アメリカ、フランスなどでも強い市民運動が起こり、日本でも多くのフォーラムやこういった勉強会が行われている。このようなことを大変うれしく思うし、存続が大切である。

【福岡市とイポー市】福岡市とマレーシアのイポー市は姉妹都市である。今は文化的な面での交流などが盛んに行われていると思うが、これからはお互いの市民がお互いの国で何が起きているのかに気付き、一緒に政策に対し発言し、活動していくことができるようになるのではないか。

【説明責任】WTO を含めあらゆる機関に言える事だが、説明責任を問うことが大切である。政府首脳関係者たちが様々な国際会議で話し合われた事を全て市民に公開し、公平な決定が成されることが大切である。サミットに関してもなぜサミットが必要なのか、何が話されているのかをもっとオープンにするべきだ。皆さんはサミット開催国の市民であり、サミットの説明責任、何が話されているかを考えて欲しい。

【これから】グローバル化、自由化、市場の開放、企業の参入、人の移動はこれから避けて通ることのできない問題で、これらに対しルールを変え対応していくことが必要である。特定の少数グループの利益追求に対抗し、世界の人々が均等に利益を得ることが出来る様ルールを変更しなければならない。世銀、IMF、ADB、WTO、G7 などはすべて同じグローバル化の方向に進んできた。色々な報告書は、その結果貧富の差が生まれ、様々なところできしみが出てきたことを述べている。これを参考に、これから先グローバル化、自由化がどこに向かって行くのかをしっかりと見据え、必要な部分には変更を加え、民主化を進めていくことが大切である。強国が集まり協議がなされ、一握りの人達が決めるグローバル化に対し、私達市民が国内外問わず結束し理解し合い新しいグローバル化の形、新しい世界をつくっていくことが必要である。

(田平佳子)

書籍紹介 (お問い合わせは ADB 福岡 NGO フォーラムへ)

WTO が世界を変える? -身近な矛盾からグローバル化が見える (¥700)
市民フォーラム2001編集/発行

貿易自由化とは何か、食・環境・サービスへの影響、そして市民社会とWTOと関係は?
22人の執筆者によって、さまざまな角度からWTO・貿易自由化問題が語られています。

チー・ヨークリンさん講演（7月7日）感想

西山優子

昨年の WTO シアトル会議で、NGO やその他の団体が自由貿易に対して反対デモを起こすという事件をニュースや新聞で知り、自由貿易によって貿易が盛んになり経済発展にも繋がるのではないかと単純に考えていた私は、どうしてそこまで反対するのが不思議だった。しかし、自由貿易による数々の弊害が生じ、その事に直接ではないにしても、間接的に自分も加わっていることに気づくことで WTO に関心を持った。

私が得る情報というのはニュースや新聞に限られ、実際に WTO やそれに関連する NGO の方の話を聞く機会がなかったため、チー・ヨークリンさんの講演は生の声を聞く良い機会になると思い、この講演会に参加した。自由貿易やグローバル化というものを全面的に否定しているのかと思っていたが、実際はチー・ヨークリンさんの話を聞くと、良い部分はそのまま残し、悪い部分はみんなでがんばって解決していこうという、前向きな考え方であった。そのときに、日本はアジアの一部として、共に協力していかなければならないのだと感じた。

チー・ヨークリンさんに賛成できる点として、会議の内容や過程を世界の人々にもっと公開するべきだということである。WTO 参加国の利害だけで決められるようなことがあってはならないし、もっと多くの人の意見が反映されるような機関にならなければならない。今回の講演会で、私の中でちょっと遠い存在だった WTO に、少し近づくことができたと思う。

WTO っちゃんね？—チー・ヨークリンさん講演会を聞いて—

立花美奈

WTO って良く分からない。なんだか難しそう。でも知ってみたい。考えてみたい。このように思っていた私にとって、今回の講演会はとても興味深いものでした。私は今まで主に環境問題という視点から、自分の生活が世界中に与えている影響について、本を読むなどの勉強をしてきました。しかし経済問題が多く絡んでいて、政策的なことがあまり理解できませんでした。

今回の講演で、WTO が食糧や加工品の輸入自由化を決定していることによる大きなひずみを知ることが出来ました。これほどまでに世界の、そして私たちの生活と密接に関わっている WTO という機関のことをどうして日本ではもっと教えようとしないのでしょうか。近現代史は現代との関わりという意味で一番重要な時代であるのに、学校の社会科でほとんど時間を割きません。知らないということが最も怖いことだと思います。知らなければそれについて語ることも考えることもできないからです。

特に印象的だったのは、WTO の決定プロセスの不透明さです。多数決を取る前に数力国の力のある国が根回しをしており、少数派の意見がほとんど反映されません。しかし決定に従わなければ経済制裁を受けます。自国の経済を自国で管理出来なくなる事態も生じているそうです。もし食糧についてそのような事態が起きれば、影響は深刻です。日本は現在輸入に頼ることが出来ますが、今後何か起きた場合に今の自給率では大きな混乱が生じることは必至です。食糧を経済に組み込んでしまうことの恐ろしさを感じました。

グローバル化により私たちの暮らしは便利で豊かになりました。しかしまた、貧富の差の拡大や環境問題の悪化をももたらしました。これらの悪い面を変えていくためにできることは何かを、常に自問自答していきたいです。今はなるべく国産のものを買うように気を付けています。また、経済や環境問題などの勉強をこれからも続けていこうと思っています。

最後に、問題点をわかりやすく丁寧に話して下さったチー・ヨークリンさんに感謝致します。講演を企画した ADB の方々も、本当にお疲れさまでした。お手伝いとして呼んでいただきありがとうございました。また、私の稚拙な文章をここまで読んでいただきありがとうございました。

平成12年8月14日 佐賀の実家にて

チェンマイで見たこと・聞いたこと

神崎尚美

二年ぶりに訪れたタイは、さらに大きく変貌を遂げていた。特に、バンコクでは通貨危機の影響で大幅に遅れていたモノレールが完成し、市内の移動がずいぶんと簡単になった。若者のファッションを見ても、露出度の高さには「ここは仏教国ではなかったっけ?」と思ってしまう。

つつい余談から入ってしまったが、今回タイを訪れたのはモノレールに乗るためでも、若者のファッションを研究するためでもなく、チェンマイで開催された「第33回 ADB 総会」にでるためだ。とはいえ、私の本当の目的は総会前に開かれる「People's Forum」だった。「People's Forum」は、タイの NGO が集まって組織された NGO-COD というネットワークが主催したもので、ADB に関する様々な事についてパネルディスカッションが行われたり、実際に ADB から融資を受けて行われたプロジェクトの被害状況の報告などが行われた。各地から訴えたいことがある住民たちが集まっていた。

今回の総会に関する一連の流れの中で、私にとっての重要な部分は NGO ではなく、実際に被害を直に受けている、または受けるであろう住民に話を聞くことができたことだった。今回はその中の二つ、スタディーツアーで訪れたメークワンのダムとバンコクの南にあるサムットプラカンの汚水処理施設について触れたい。

まず、メークワンダムは OECF の融資を受けて1991年に完成した。ダムから流される水は三つの水門に分かれており、二つは灌漑用でもうひとつは下流のランブーン工業地帯へと流されている。灌漑用水路ももともと住民たちが使っていたものを作り直されている。問題は下流域へ流される水、特に農業に使われる水がないことである。一番水が必要な乾期に、最長9ヶ月間水門が閉じられたままだったことがあるらしい。何よりも住民の怒りをかき立てているのは、自分たちに流される水はなくても、ランブーン工業地帯へ流される水は必ず確保されていることだ。私たちはランブーン工業地帯へも行くことができた。そこには79ほどの工場があり、そのほとんどは外資系の企業だ。日本の会社の工場も多く参入している。さらに、工場の汚水は、敷地内に五つある池に溜められている。処理のための池だそうだが、どう見ても溜めてあるだけだ。さらにひどいことには、においを薄くするためにモーターを使って水をかき混ぜ、水中に酸素を送り込んでいる。こんな子供だましのことでいいのうかと本当に疑問に思った。

サムットプラカンの汚水処理施設は、ADB が融資をして1997年に ADB からの貸与が決定した。当初の計画では、現在汚水処理施設がある場所より20キロ離れた場所に建設される予定だったが、急きょ変更され現在の場所になった。ここで処理される水は工場排水で、1日あたり8,400立方メートルの量を処理する予定で、しかも想定されていなかった重貴金属の加工污水や科学物質も流されて来る可能性があるという、住民によると予定地変更後、環境影響評価は行われなかったとのことだ。しかもこのあたりは、昔からの豊かな漁場で、この汚水処理施設は海を汚し、人々の生活手段を奪うことになる。今回の総会には、このことを訴えるためサムットプラカンから200人もの住民がきており、NGO/P.O. 側の重要なトピックのひとつだった。

この期間中、私が実際お会いして、お話を伺った方々はまだまだいる。ここに挙げた二つはたくさんある問題の一部にすぎない。この方々から、私は怒りと力強さを感じた。自分たちの生活を自分たちで守ろうとする力強さだ。バンコクからチェンマイまでの1000キロの距離をこれだけの人々が訴えるためにやって来たことだけでも頭が下がる思いだ。

今回の ADB チェンマイ総会、市民フォーラムは終わったが、この住民たちにとっては、長い戦いがまだ始まったばかりである。

ADBの虚実と現実 (4)

ADB・NGOフォーラム委員長 南里隆宏

協調融資活動と民間セクター業務-2

ADB は、民間セクター業務に関し、「実際の投融資額が少ないので、環境・社会への影響は大きくない」という言い方を頻りに使うことが多い。しかし、こういう考え方は非常に短絡的であると言える。すでに説明したように、ADB は「少ないお金で多くの資金を呼び込む」ことを重視していることから、その影響を実際の支援額から判断することは出来ない。特に、民間部門への支援は、それが投資・融資のどのような形を取っても、通常はインフラ開発に重点を置かれることから、利益追求を目的とする民間部門が環境・社会面をおろそかにする可能性も高い。この点では、BOO/BOT プロジェクトでも同様のことが懸念される。環境・社会面への配慮という観点からは、国営機関の民営化を促進するという点にも一考の余地がある。民営化を通じて、国営機関の経営を健全化することのみが注視され、リストラに伴う失業者の増加、環境配慮や本来の業務、例えば貧困者への適切なサービスの提供など、がおろそかにされる可能性もある。

また、個別のプロジェクトに留まらず、触媒的な役割を果たす ADB は、多くの民間機関/企業から、その環境・社会配慮の在り方に関し、「手本」とされている。このことは、考えようによっては、1 ドルにつき 1.5 ドルの資金を呼び込む協調融資によって、ADB は資金調達のみだけでなく、環境・社会面へも莫大な影響を及ぼしていると言える。つまり、民間は言うに及ばず、2 国間機関や ECA の環境・社会配慮は ADB に比べて不十分なものであることから、ジョイント協調融資の場合は言うに及ばず、それらの機関が自身で環境・社会の配慮を行う際も（政策策定を含む）、ADB を「手本」とする場合も少なくない。よって ADB には、「資金を集めるだけでなく、その結果及ぼされる影響」に関してもきちんと配慮する必要がある。後で詳しく触れるが、端的に言って ADB の環境・社会配慮の在り方は、以前よりはマシになったかもしれないが、実際には改善される点が多々ある。つまり、もし ADB が現在の状況を改善することをおろそかにすれば、その結果及ぼされる影響は、単に自身が支援するプロジェクトに留まらず、広範囲に渡ってしまうことになる。ADB は、豊富な資金需要を満たす為に、自身の「影響力」を積極的に行使しているが、こうした別の面での「影響力」に対しても、より一層の注意を傾ける必要がある。

ADB の環境・社会配慮

ADB は、カテゴリー A のすべておよび B の一部のプロジェクトに関し、IEE 及び EIA を行うことを義務づけている。また、SEIA は理事会審議の 120 日前までに公表されることになっている（公的/民間部門双方）。各プロジェクトサイクルの段階でも、環境・社会面での配慮がきちんと行われるよう、作成される資料にもそれらの事項が含められ、環境社会開発室はスタッフ間での会合やミッションにも参加することが義務づけられているという。また、毎年環境室は、通常のミッションとは別途に、プロジェクトの実施中に環境面での監視が必要なものをリストアップした報告書を、完了したものに関しては環境面での評価を行った報告書を作成している。いづれにせよ、「枠組み」だけを見れば、環境や社会へきちんと配慮する仕組みが作られているように見受けられるが、これまで何度も述べてきたように、問題はそれらの「質」、つまりシステム自体が実施レベルできちんと機能しているかということである。なおその詳細に関しては、以下の「情報公開/参加」に焦点を当てて考えて見ると、非常に顕著であると言える。

住民参加・情報公開

すでに述べたように、ADB が過去数年で一連の業務改革を行ったことによって、住民参加や情報公開の面で進展が見られたことは事実である。しかし、ここで大きな問題は、「政策や制度があっても、それらがきちんと実行あるいは機能していなければ真の意味で問題の解決に繋がらない」ということである。以下、いくつかの具体例を基に、「進展しつつあること」と「改善されるべきこと」を述べることにする。

住民参加

ADB は自身が持つ環境／社会関連のガイドラインの中で、ADB の業務における参加の重要性を強調しており、基本的な参加の在り方として、次の4つの段階での必要性を強調している。

1) プロジェクトを実施する際に各サイクルで保証する「参加」。

この中には、プロジェクトの立案段階や環境・社会影響調査を実施する過程で、受益者の意向を聴衆する場を設けることが含まれる。また、事後評価を行う際も同様。

2) 国別業務戦略やプログラムを策定する際の「参加」。

3) 環境・社会関連のセクター政策や再評価を行う際の「参加」。

政策策定や再評価の過程で NGO を含む外部の人間の意見やコメントを取り入れるなど。

4) 特定の問題や政策全般を話し合う為の「協議」

政策全般や個別のプロジェクトなどに関する意見交換を行う為、各国／地域ごとに協議する場を定期的に設ける。

こうして見ると、ADB の業務には、かなり頻繁に外部の人間が「参加」する場が設けられているように見受けられる。しかし、現場からは、「いくら機会があっても、実際には殆ど役立っていない」という声も根強い。その主な証拠として、例えば以下のように、改善されるべき点が見られる。

1) 対象者の適切な選定

NGO や受益者と協議する場を設けると言っても、協議自体の目的を鑑みた結果、具体的に誰を対象とするのか充分考慮される必要がある。例えば、ダム建設プロジェクトの場合、その影響を被る人々は多岐に渡ることから、参加者の基準を熟慮する必要がある。

2) 協議の内容に関する適切な時期・形での情報提供

協議や意見交換の場が設けられたとしても、その詳しい議題や内容が事前に参加者へ知らされなかったり、関連情報が直前に提供され、参加者に十分な準備を行う時間が与えられないなど、協議する場を設けるとしても、それを行う上できちんとした準備がなされる必要がある。また、提供される資料や「協議」等の場で活用される言語に対しても、十分な配慮がなされるべきである。

3) 受益者が自由に発言できる環境の整備

国によっては政治状況から、公の場での自由な発言が制限される所もある。ADB は、各国ごとのそうした状況に注視し、受益者の意向が可能な限り尊重されるよう、適切な環境を整備する必要がある。

4) 聴衆された意見を積極的に業務に反映させる姿勢の保持

「参加」の主な目的は、「聴衆された意見を実際の業務に反映させる」ことであるべきである。残念ながら、これまでの ADB の行動から判断すると、「機会を設ける」ことに重点が置かれ、「そこで出された意見を反映させる」姿勢が欠如しているように見受けられる。たとえ現実上の制約があったとしても、結論が出されるまでに、建設的かつ透明な過程を経て議論が進められるべきである。例えば、ADB は多くの環境・社会に関連する政策を策定し、その過程で NGO などの意見を聴衆する場を設けたとしている。しかし、多くの場合、積極的に意見が出され活発な議論が行われたのにも関わらず、それらが実際に顧みられることはなかった。最終版の策定にあたっては、建設的な過程を経たとは言えず、ADB の方が一方的に議論を打ち切る形で進められた。

5) 組織の実行能力の強化と各スタッフの能力向上

参加を保証する制度やシステムが構築されたり、その結果活動計画が策定されたとしても、組織としてそれを実行する能力がなければ、すべてが「絵に描いた餅」に過ぎない。ADB の中には、未だ環境・社会への配慮を認識していない人間も多く、組織全体の実施能力の向上が望まれる。

(次号へ続く)

活動報告・これからの企画

活動報告

- 7月5日 サミット・WTOを考える講演会1 (モード・バーロウさん)
公共サービス“国際化”が進行する！—なぜ人々はシアトルで「NO!」の声をあげたのか—
- 7月6日 債務帳消し世界一斉行動
- 7月7日 サミット・WTOを考える講演会2 (チー・ヨークリンさん)
サミット・WTO 私たちが知らないこと、知るべきこと、知りたいこと
- 7月8日 フラワーマーチング IN 福岡
- 7月21日 FNA運営委員会
- 8月7日 FNA運営委員会
- 8月12日 びおとーぶ大そうじ
SHOUDOKU会
- 8月20日 宇美町フリーマーケット (雨のため断念)

これからの企画

- 8月28日 講演「クジラの水銀汚染」場所：びおとーぶ 講師：倉澤七生さん
- 9月1・2日 ESCAP環境大臣会議 (北九州市)
- 9月3日 アジア・太平洋環境女性会議 (北九州市)
- 9月4日 FNA運営委員会
- 9月16日 メコンセミナー福岡
- 10月29日 びおふえすた
- 11月25・26日 あすばるふえすた

☆☆☆☆おしらせ☆☆☆☆

ADB福岡NGOフォーラムの略称を、「FNA (エフナ)」(Fukuoka NGO Forum on the Asian Development Bank) とすることになりました。

ホームページ開設！アドレスは、<http://www.geocities.co.jp/WallStreet/2253> です。

ぜひ、よくお願いします！

緊急お知らせ

開催決定！メコンセミナー福岡

9月16日(土) 場所：未定

海外ゲスト3名来福

和白千瀬スタディツアーも計画中

詳細は違ってお知らせします。

ホームページ情報 アドレス <http://www.geocities.co.jp/WallStreet/2253>

7月7日、ADB千野総裁とFNAメンバーが福岡市内で会見しました。
その詳しい内容をただいまFNAホームページで公開中です。

主な内容は 1) 対話と参加 ステークホルダーの対話・参加についての総裁の考え方
NGOの国際機関への働きかけに対する総裁の今後の姿勢

2) クロンドン排水処理場建設反対などタイNGO・NPOの要請

3) その他 報告書などの現地語への翻訳について

ご希望の方には会見記録のコピーをお送りします。お問い合わせください。

千野総裁との会見を終えて

土肥勲嗣

アジア開発銀行の総裁は僕の想像とは異なり大変感じの良い「いい人」だった。その点、前回の大蔵省協議でお会いした黒田財務官は期待通りの「役人」であったわけだが、どうも千野総裁は僕のイメージする「役人」とは違って、偉そうでなく、威張ってなく、真摯に僕らの話を聞き、誠実に対応してくれた。およそ30分の会見を終え、僕は緊張も緩んだ時、ふと思った。「千野さんっていい人」なんじゃないか？

会見があった料亭(?)を後にし、エレベーターに向かう際、A先生に思い切って尋ねてみた。

「先生、僕が騙されているのかもしれませんが、千野さんっていい人じゃないですか？」先生、「騙されとる」。即答だった。やはり人は見た目で判断できないのであろうか。いや、正確には「役人」は見た目で判断できないのだろうか。このような経験は大蔵省協議の後の交流会でもあった。その時の比較的若い官僚は、僕らの意見に真摯に耳を傾け、共に問題を共有していた。僕はFNAのある先輩にこう言った。「彼見たいな官僚だったら信頼できるように思いますが、どう思いますか？」「私はそうは思わない」といった答えだった。うーん、僕が単純過ぎるだけだろうか。

千野総裁は会見の際、自分自身のことを「ポバティー・マン (POVERTY MAN)」であると称し、貧困の改善について最も関心があることを強調した。POVERTYとは「貧乏・貧困」を意味し、POVERTY PEOPLEと言ったら「貧乏人」である。なるほど、彼が身につけている時計は一見安そうなものであった。

また、これはA先生の話だが、自分の体験として「貧困」を経験している「役人」というのは今の世代が最後で、今後は「飽食の時代」に生まれた、「貧困」を知らない世代の「役人」がアジアの「貧困問題」に取り組むことになる。これはNGOの人にも言えることだが、「貧困」を知らない人が「貧困」をどうやって解決するかは一つの課題である。

ところでPOVERTYには「貧乏・貧困」の意味の他に「欠乏・貧弱」の意味もある。POVERTY OF COMMON SENSEの意味は「良識の不足」である。アジア開発銀行は先のチェンマイ総会において、「貧困削減」を目標として掲げた。千野総裁が使ったPOVERTYは、「貧乏・貧困」の意味であって、「欠乏・貧弱」の意味ではないことは、彼の今後の行動次第で明かになるだろう。僕達はそのことを確認する必要があると思う。

*今回は土井さんのコラム「考える糧—Food for Thought はお休みします

ADB 福岡 NGO フォーラム入会のご案内

ADB 福岡 NGO フォーラムでは会員を募集しています。入会されますと、活動報告などを掲載したニュースレターをお送りします。

年会費は1口3000円です(入会金は不要です)。入会される方の氏名・住所・連絡先(電話・ファクス・Eメールアドレス)を当フォーラムへお知らせください。会費は、現金書留で送付するか、または、次の口座へ振込をお願いします。

西日本銀行 天神北支店

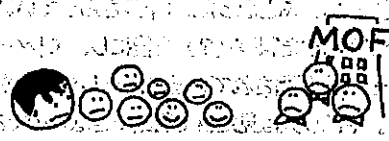
ADB 福岡 NGO フォーラム 楠原圭子 普通 口座番号 0369343

詳細は、福岡 NPO 共同事務所「びおとーぶ」内 ADB 福岡 NGO フォーラム
(〒815-0071 福岡市南区平和1-6-1 電話・ファクス:092-526-9620
e-mail:biochan@lily.ocn.ne.jp) へお問い合わせください。

編集者から $\alpha\beta\gamma\delta\epsilon\zeta\eta\theta\iota\kappa\lambda\mu\nu\xi\omicron\pi\rho\sigma\tau\upsilon\phi\chi\psi\omega\alpha\beta\gamma\delta\epsilon\zeta\eta\theta\iota\kappa\lambda$
前回4号が予定より2ヶ月遅れの発行となってしまいましたが、第5号はなんとか予定をクリアできそうです。内容をご覧いただければわかるように、新しい顔ぶれの方々が原稿を寄せてくれました。新鮮な感覚から、違う視点を教えてもらえるのはうれしいことです。

決して若い方だけを歓迎しているわけではありません。このニュースレターへの寄稿、ご意見、ご感想、お知らせ、なんでも結構です。みなさまのお声をお待ちしています。宛先は下記住所の事務所あて、郵送・ファクス・電子メール、なんでもかまいません。

なお、次号は11月発行の予定です。どうかよろしくお願いします。



Open Account とは

英語の「アカウント」には、「銀行口座」と「説明」という二つの意味があります。「説明」の意味の「アカウント」は、最近よく聞かれる「アカウントビリティ」(説明責任)という用語の一部でもあります。「オープン・アカウント」とは、ADB が銀行であることから「口座を開く」という意味と、「ADB の活動を市民に対して分かりやすく説明し、情報の公開を求めていく」という意味がこめられている「かけ言葉」です。『オープン・アカウント』が ADB などの国際金融機関や ODA の透明性を高める場になることを願ってやみません。

Open Account 2000年8月号 Vol.5

発行: ADB 福岡 NGO フォーラム
住所 〒815-0071 福岡市南区平和1-6-1
福岡 NPO 共同事務所「びおとーぶ」内
TEL & FAX 092-526-9620
編集責任者: 楠原圭子
e-mail: biochan@lily.ocn.ne.jp
ホームページ開設
<http://www.geocities.co.jp/WallStreet/2253>